

## 新除草・調節剤

アラナツプ

### NPA液剤

アラナツプ普及会  
事務局

相互貿易株式会社  
イハラ農薬株式会社  
日産化学工業株式会社  
北興化学工業株式会社  
三共株式会社  
山本農薬株式会社

対象作物：キュウリ・スイカ・メロン。

性状・作用特性：本剤は、有効成分N-1-ナフチルフタラミン酸ソーダ塩を20%含む液剤である。

本剤は、発芽時の雑草種子および発芽間もない雑草に対して、接触的に、また根からの吸収によって殺草効果をあらわす一年生雑草対象の土壌処理型除草剤である。

ウリ科作物に選択性があり、安全に使用できる。

残効性は比較的長く（1ヵ月位）、土壌中での移行性は中程度であるが、沖積土壌では比較的大きい。

毒性については、人畜・魚貝類とも極めて少ない。

使用方法 露地およびビニール・マルチ栽培では、は種後または定植活着後に10アール当り製品量1,200～1,700ccを100ℓ前後の水にうすめて均一に土壌処理する。生育期処理のときは、なるべく作物にかからないよう注意する。

使用上の注意としては、すでに発生した雑草には殺草効果がないので、は種後2～8日以内ま

たは定植活着後に土壌に均一に散布すること。生育期処理の場合、作物の発育が悪いとき、低温、高温時には薬害が出ることがあるので注意すること。トマト・テンサイ・ホウレンソウは、特に敏感であるので、かけないよう注意すること。土壌が乾燥しているときは、効果が落ちるので、さけること。ビニール栽培の砂質土壌では、薬害がでることがあるので、使用量が多すぎないように注意すること。なお、タデに効果がやや劣るので、タデの少ない畑での使用が望ましい。

ワイダック

### DCPA・NAC乳剤

ワイダック普及会  
事務局

保土谷化学工業株式会社  
イハラ農薬株式会社  
東亜農薬株式会社  
大日本除虫菊工業株式会社  
長瀬産業株式会社  
三笠化学工業株式会社

対象作物：ミカン・リンゴ・落葉果樹。

性状・作用特性：本剤の有効成分は、8,4ジクロロプロピオンアニリド（DCPA）25.0%および1-ナフチル-N-メチルカーバメイト5.0%の混合剤である。

本剤は、DCPAに葉の中のDCPA分解酵素をおさえるNACを加えることによって、殺草効果をさらに高めた、接触型除草剤である。草丈が60～70cmの雑草に対しても、効果がある。土壌に落ちた薬剤は、速やかに分解されるので、根から吸収されることは少ない。

ミカン（特に温州）に選択性があり、果樹園

## 新除草・調節剤

の下草を対象に、効果的に使用できる。

抑草期間は40～60日位で、殺種子性がないため、急激な草種の変化がなく土壌流亡のおそれが少ない。そのため、傾斜地の多いミカン園でも使用が可能である。

毒性については、人畜・魚貝類に対し実用上ほとんど心配ない。

**使用方法：**気温の高いときほど効果が高いので、夏草に有効である。7月頃（梅雨あけ直後の夏期高温時）に10アール当り製品2～3ℓを150～400ℓの水にとかして濃度（0.75～1.5%）加圧式噴霧機で雑草の根もとまで充分にぬれるように散布する。

使用上の注意としては、なるだけ果樹の莖葉にかからないようにすること。当年植えの苗木は薬害を受けやすいので、樹上から散布しないこと。気温の低い春秋および散布後1日以内に降雨があると、効果がおちる。

多年生雑草には効果が少ないので、これの少ない園で使用する。防風林でモリシマアカシヤは、本剤に弱いので注意すること。マサキ・サングジュ・スギ・イスノキでは莖葉に多くかかると害がある。

アリセツブ

### PCA・BIPC水和剤

北興化学工業株式会社

対象作物：タマネギ本畑。

性状・作用特性：本剤は、1-フェニル-4-アミノ-5-クロロピリダゾン-6（PCA）20.0%とブチニル-m-クロロフェニルカーバメイト（BIPC）16.0%を有効成分とす

る混剤である。

本剤は、イネ科および広葉の一年生雑草を対象とした非ホルモン型の移行性除草剤で、雑草の発芽期では根から吸収され、また子葉期～本葉才1葉期では莖葉から吸収されて、殺草効果をあらわす。

タマネギには選択性があり、殺草効果が気温によって影響されることが少ないので、秋の定植活着後処理および春の生育期処理に効果的かつ安全に使用できる。

残効性は長い方であるが（2カ月位）、秋の活着後と春の生育期の2回処理は、きわめて優れた効果がある。

毒性については、ラット急性経口毒性LD50が、PCA 3,600mg/kg、BIPC 2,500mg/kg、魚毒がヒメダカTLM 48hr 14ppmで、極めて低く、実用上心配がない。

**使用方法：**定植活着後（秋期）または生育期春期に10アール当り製品量400～600gを100ℓ前後の水に溶かして、地表にむらなく散布する。なお、定植活着後と生育期の併用は、非常に効果がある。

使用上の注意としては、雑草の発生前や幼草時を狙って散布し、すでに雑草が大きくなった場合には、効果がないので、中耕除草後に使用すること。なお散布にあたっては、他の作物にかからぬようにすること。作物の成育が悪いときおよび高温時には、薬害を生ずることがあるので注意すること。